

箕輪町地域包括ケアシステム推進協議会会議録

令和3年11月25日（木） 午後1時30分
箕輪町役場講堂

次 第

1 開会

2 委嘱状交付

新規委員の紹介。委嘱状の交付

3 町長あいさつ

地域包括は様々な会議体があるが、地域包括ケアシステム推進協議会が一番上位の会議体である。ご意見をいただきより良いものにしていきたい。新型コロナウイルス現在落ち着いている。第6派に備え感染防止を徹底していきたい。ワクチンへの協力ありがとうございます。ワクチンの接種率90%。65歳以上は95%を超えている。接種3回目については、1月終わりころから医療従事者・介護従事者へ接種をはじめたい。町の高齢化率が30%を超えた。人口は、11月1日現在24,676人。一番多い年齢は、47歳で443人、次いで72歳が442人。団塊の世代・団塊ジュニア世代が多い。団塊世代があと3年で75歳に到達する。出生数は少ない。0歳児156人、85歳192人。高齢化、少子化が進んでいる。こういった状況でいかなるシステムをつくっていくか皆様のご協力をお願いしたい。

スポーツ庁による調査では、ほとんどの世代で体力の低下がある。ステイホームの影響ではないか。介護認定に影響が出ると考えている。皆様のお力をお借りして介護認定率があがらないようにしていきたい。

4 自己紹介

出席者：寺平委員・城倉委員・丸山委員・高橋委員・小林委員・西澤委員・
市瀬委員・唐澤委員・北川委員・吉江委員・秋葉委員

欠席：中川委員・東委員

5 会長代理選出

東会長から秋葉委員へ指名

6 会長代理あいさつ

後期高齢者増加、高齢になってもよりよく生活していけるように検討していきたい。

7 協議事項

(1) 地域包括ケアシステムの進捗状況について（本資料・付属資料）

○町の状況と協議会の役割（p1～5）

質疑応答なし

① 生きがいつくり・健康づくり・介護予防の推進（p6～12）

寺平委員 : p9 独居高齢者訪問について。該当者数と救急キット未申請者人数。また、コグニサイズのアプリについてお聞きしたい。

町 : 独居高齢者世帯は約 800 世帯。福祉課では約 150 人を訪問予定。コグニサイズは認定を受けたものしかアプリを使えない。町のタブレットを使い評価していく。1人30分程度かかるので多人数は難しい。

唐澤委員 : p12 介護予防ポイントについて。7,8年前、公民館主催でよく似た事業をやっていた気がする。高齢者の励みになる事業になるのではないか。

秋葉会長代理 : 長寿クラブでなかなか外にでられないなかでの事業を提案しているがいかがか？

市瀬委員 : 去年はコロナで色々な行事ができなかった。
ながた荘へ行ったり、百歳体操、サロンがある。

秋葉会長代理 : 口腔の健康で介護予防への意見をいただきたい。

北川委員 : オーラルフレイルや歯周病・脳の活性化にかかわっていると言われている。口の健康が体の健康に直結する。口の健康も認知症予防につながる。清潔を保つことから始めてもらえれば。

西澤委員 : 健康推進課で健康ポイントがある。健康ポイントは引き続き行うのか。

町 : 健康ポイントと連携していく予定。介護予防ポイントは制度上65歳以上が対象となる。社会参加に重点を置いていくことを考えている。

唐澤委員 : ポイント事業によって医療費が減ると聞いているが、どうか。
口腔衛生はとても大切と感じている。

町 : いきいき百歳体操で体力測定を実施している。活動を自粛してい

た方が体力が低下していて、自分で活動を続けていた方は維持できているという結果もあった。通いの場に通うことで維持につながっているのかもしれない。

医療費の分析はできていない。次回以降お示ししたい。

町長 : 一般的には介護予防で医療費が下がるわけではない。
自己満足型のものにポイントをつけるつもりはない。意味のある事業にポイントをつけていく。

② 地域全体で高齢者を支える体制の整備) (p 13~17)

③ 医療と介護が一体となった在宅サービスの推進 (p18・19)

吉江委員 : p 14 デマンドタクシーについて。介護の仕事をしていたときに、誰かが迎えにきて送ってくれれば好きなことができるのという利用者の言葉が心に残っている。生きがいに通じるような外出支援もお願いできればと思う。

高橋委員 : 徐々に制度や地域の支援が増えてきていると感じた。すべてをカバーするのは難しいが意見を聞き改善していければいいと思う。家族を含め高齢者以外にも様々な形で活用できるといい。

小林委員 : デマンド型タクシーがあるなら免許返納しようかなという声を聞くことある。地域でも全戸アンケートをとると、最初はいろんなこえがでたが、最近は雪かき・草取りくらいしかでない。地域で浸透したから、隣近所で出来ている部分もあるのではないか。高齢者を支える仕組みができていくのはいいこと。民生委員は高齢者を訪問し、声をきいてあげていきたい。

西澤委員 : いきいき塾から介護保険に移行するのを嫌がるケースもある。本当にその人に必要なサービスが提供されるように、先が見えているサービスの説明をあらかじめしておいたほうがいい。介護予防のあと介護保険になったらおしまいだにならないような見せ方も必要ではないか。

A C P と救急キットが連動して動いていけるといいと思った。

秋葉会長代理 : デマンド型タクシーの停留所がわかりづらい。座る場所があると活用しやすいのでは。

町 : 担当課の企画振興課にも伝える。

④ 認知症になっても自分らしく安心して暮らせるまちづくり (p 20~22)

寺平委員 : p 21 認知症サポーター数。延べ 3,458 人はいつからいつまでの人数か。国が定める市町村ごとの目標値はクリアしているか。課題のサポーター活用の方は検討中か。

町 : 人数は H17 年頃からの受講者数。国が定める目標値については確認したい。

チームオレンジを R7 年までに全市町村に設置することになっている。サポーター講座を受けた方がステップアップ講座を受けて活躍できればと考えている。他のサポーターを含め、体制作りを検討していきたい。

城倉委員 : 認知症の介護をされている方で施設にしっかり預けるのではなく、たまに預ける方、冬の間のみ利用する方がいる。お家で生活できるように支援している。サポーター養成講座受講したが、どう活躍していくかを感じている。

⑤家族介護支援 (p23)

⑥介護人材の養成・確保 (p24)

⑦高齢者の住まいの確保 (p25)

⑧安全・安心な暮らしの確保 (p26・27)

⑨高齢者福祉サービス (p28)

⑩保険者機能強化推進事業評価 (p29)

○地域包括ケアシステム推進に向けた課題と取組み (p30～31)

高橋委員 : p 26 後見報酬補助についてお聞きしたい。

町 : 申立の支援は低所得者に対する費用の支援。後見報酬補助は成年後見人がついた後、本人が自身の後見人に支払う報酬額の補助。ただし、補助は「町長申立に限る」となっているので制度の拡大を検討していきたい。

丸山委員 : 介護人材の確保は社協の訪問介護事業所では大きな課題。ヘルパーの高齢化も進んでいる。募集をかけても来ない。虐待の家庭にヘルパーが入ると記事でみたが人材確保が大変。

独居の住宅の管理、生活困窮者の住宅の確保。自宅ではがんばりきれないという方もいるので、入れるところがあるといいと感じる。

秋葉会長代理 : オレンジカフェは、「本人がどう地域に出てくるか」という課題がある。場所を作って本人を呼ぶのは難しいと感じている。

町 : 家族会には数名、本人が参加されている。つなぐことに力を入れていきたい。本人のニーズも把握していきたい。

西澤委員 : のぞみの会は本人が出てくる場所にもなっている。場所をわけて過ごしてもらっている。もう少し増えてきたら、当事者の会も開催したい。

8 その他

9 閉会